

子育てをする障害当事者の
学校や保育園事情



ひまわり通信

Vol.20 2025.7.

“どんなに重い障害があっても地域で共に生きる社会”を目指して

発行：特定非営利活動法人 ひまわり事業団
静岡障害者自立生活センター

〒422-8006 静岡市駿河区曲金 5-4-58
TEL：054-288-6068 FAX：054-287-4922
E-mail：himawari@scil.jp HP：https://www.scil.jp



編集：ひまわり事業団

子育てをする障害当事者の学校や保育園事情

あたりまえに親として

「俺だって授業参観したいよ」

とある朝、浮かない表情で出勤した小久江（こくえ）のひとことに私はすべてを察した。

しかし、私は気の利いた言葉を返すことができなかった…



特定非営利活動法人

清水障害者サポートセンターそら事務所にて

私たちには共通点がある。

それは「子育てをする障害当事者」であること。

お子さんの進級とともに教室が2階になったことで、電動車椅子ユーザーである小久江に階段という最大の難関が立ちはだかる。当初は学校側の手助けで車椅子を持ち上げてもらえと思っていた。しかし、「目立つのもイヤだ！どうしようかな？」という気持ちも拭えず悶々とする日々が過ぎた。実際に学校側と話し合いを進めるうちにさまざまな理由から別のやり方を検討していくことになった。

インクルーシブ教育という言葉が近年よく耳にするようになり、地域の小中学校に障害がある子どもが通うことは珍しくなくなった。メディアでも多く取り上げられている。ただ、通学しているのは知的や発達障害の子どもが大半で、学校の設備上、肢体不自由の子どもの通学実績は圧倒的に少ない。ちなみに、静岡市内の公立小中学校にエレベーターが設

置されているのはわずか数校とのこと。

そのような状況のなかで、子育てをする特に肢体不自由の障害当事者もまた葛藤している。世間ではまだまだ少数派ではあるものの、一定数は存在するのだ。

実際に過去には当団体にも自らが障害者ゆえに子どもの就学先について悩んでいるとの相談があった。自分は車椅子ユーザーのため、階段の上り下りが難しいから子どもをエレベーターがある学校に通わせた方がよいのかと。子どもに合わせるべきか、それとも自分に合わせるべきなのか…私たちには痛いほどその気持ちが理解できた。

“自立生活センターが母体である私たちならではの発信を”それが当団体の機関誌のコンセプトだ。今回は私たちだけではなく、同じように子育てをする障害当事者たちの学校や保育園での様子、また、親として子育てについての率直な思いをまとめた。

子育てで大事にしていることやこだわりは？

やまもと ただひろ

特定非営利活動法人

山本 忠広 さん 清水障害者サポートセンターそら 理事長



親からは「ああしろ、こうしろ」とは言わず、自分で考えさせることを大事にしてきました。困ったり、悩んだりしたら相談してきなさいと。

頸髄損傷 60代 車椅子使用

大学生（21歳）の父

こくえ ひろし

小久江 寛

特定非営利活動法人 ひまわり事業団 理事長

生き物を大切にする、友達をたくさん作る、給食をしっかり食べる給食については昭和の考えかもしれませんが「残すな」と伝えていて先生と会った時に食べているかを確認しています。

頸髄損傷 60代 車椅子使用

小3 男児（8歳）の父



H・M さん

なかなかできないですが、なるべく怒らないようにしています。

脳性麻痺 40代 クラッチ杖・車椅子使用

保育園年中 男児（4歳）の母

すずき かな

鈴木 香奈

特定非営利活動法人 ひまわり事業団 副理事長

娘たちが国語の授業でやった「ずうっと、ずっと、大すきだよ」の話を感銘し、登校前と寝る前に娘たちとハグをしながら「ずうっと、ずっと、大すきだよ」と言い合うことを数年間続けています。

脳性麻痺 40代 松葉杖・車椅子使用

小5 女児（11歳） 小3 女児（8歳）の母



授業参観や保育参観などの行事で、悩んだことや困ったことはありますか？

H うち学校ではなく保育園の話になりますが、息子が通う保育園はハード面は完全バリアフリーではないので、通用門の鍵の開け閉め、また、通用門周辺に坂や段差があるので不便さは感じます。ただ、室内はわりとフラットなので、杖で上がらせてもらうこともあるし、車椅子で上がることもあります。

また、保育参観は1家族1人までという人数制限が今でもあって、夫婦での参観はだめなんです。でも、不安なので夫に送ってもらって、いざという時はフォローしてもらえように待機してもらっています。私の場合、座っているだけならよいのですが、やっぱり大丈夫かな、何かあったらどうしよう、という気持ちにはなりますね。たとえば、お手洗いか。お手洗いは多目的ではないですが、洋式で段差がないので使えます。ただ、私がアクションを起こすとまわりの先生方が「大丈夫ですか？」と心配してしまうので、申し訳なくて言いづらい時はありますね。

鈴 昇降口での靴の脱ぎ履きや、やっぱり階段は大変です。学校は北校舎（4階）と南校舎（3階）に分かれていて渡り廊下で繋がっているのですが、コロナ禍は参観に20分という時間制限があり、子どもたちの校舎が別だったので移動が大変でした。もちろん早めに入ってもかまわないと許可はいただきましたが、午後からの参観の場合、昼休みのうちに私ひとりが校舎に入ったら目立つので、子どもたちの気持ちを考えると躊躇してしまいました。ちなみに、今は45分間立ち見しています。制限がなくなった今、教室内はもとより廊下も人がたくさん。車椅子での参観は厳しいのが現実です。

ただ、二女のこども園からの同級生のお母さんが介護福祉士資格を持っていてヘルパーの仕事をしているからとずっと気にかけてくれていました。ダブルワーク可能とのことだったので、私の勤め先のヘルパー派遣事業所とも契約してもらい、今は仕事として支援してもらっています。彼女はボランティアでかまわないと言ってくれましたが、仕事としての方がこちらが割り切ってお願ひできるので、私の気持ち的にも楽なんですよね。

学校や保育園の良いところ、配慮はありましたか？

山 うちの小学校は娘の同級生が6人という小さな学校で、娘が幼稚園の時にイベントをお父さんたちと一緒にいろいろやっていたのですが、僕が車椅子ということでお父さんたちがちょっとした段差は持ち上げてくれていました。

娘が年長になった時、入学するにあたって外から土間、土間から廊下までに段差があったので、僕がどうしたら校舎に入れるかを僕が知らぬ間にまわりが相談してくれていました。簡易的なスロープを用意してもらえれば入ることができると伝え、実際に学校へ行って寸法を測ったりして、学校側がスロープを購入してくれました。そのため、入学式もスムーズに出席することができました。

また、上の階に上がる時は先生方が「どうやって介助すればよいか言ってもらえればやりやすよ」とお父さんたちと車椅子を持ち上げてくれました。だから、僕の場合は依頼していないです。まわりが動いてくれました。逆に数が少なかったからより協力するというのが強かったかもしれないです。

ただ、何かを依頼すると学校側としては事故の時の保険の話などがどうしても出てくると思います。

過去の話ですが、小学生のお母さんから自分が車椅子で行事に参加したいから階段で車椅子を持ち上げてほしいと依頼したら断られてしまったので、僕の方から学校側に交渉してもらえないかと相談を受けたことがあります。僕はその方に、もし依頼して自分が怪我をしたり、車椅子が壊れたりしたら学校との責任問題で自分が依頼したことだからと身を引くことができるかと問いました。でも、その方は、「その時は学校側に文句を言う」という返答だったんですね。それだと最初から受け入れてもらえないと僕はその方にはっきりと伝えました。

やっぱりどこかでこちら側も歩み寄って、“何があっても”というある程度の覚悟を持って交渉するのが大切だと思います。



小 相談にのってくれる姿勢や、対話で解決してくれようとする姿勢が伝わってくるので有り難いと思っています。

ただ、配慮として参観を教室ではなく体育館やグラウンドでやることを提案されたり、運動会では特別区画（写真下）を設けてくれたのですが、正直それはちょっと違うんですか…とモヤモヤしました。僕は普通に教室で参観したいし、写真のように大々的にされるのは気が引けます。

それでも今は、1階は自由に行き来できるようにしてもらったので、2階になってどうするかは改めて話し合い、今後参観ができるようになったらいいなと願っています。

ちなみに、学童保育の建物の前には数段の段差があったので、スロープといつでも呼び出しができるようにインターホンをつけてくれました。



鈴 配慮の定義って難しいですね。私も以前、運動会でPTA腕章を渡されて、「これをつけて本部席で観てくれていいですからね」と先生から言われたことがあるのですが、私は当時、PTA役員ではなかったんですね。有り難い配慮ではあるのですが、まわりの保護者からしたら、いくら障害があるとはいえ、面白くないと思う人もいるでしょう。なので、私は腕章をつけられませんでした。

こういうことって学校側の配慮というより、先生方個人の思いの方が強いでしょうし、立場的に勝手に判断できないこともあると思います。私にPTA腕章を渡してくれたのは教頭先生でした。それ以外の先生が独自の判断で腕章なんてなかなか渡せないですね。

H 保育園のことや行事、送迎もそうですが、今はほとんど夫にやってもらっているのが現状です。

私は一緒についていく金魚の糞みたいな感じで、私がひとりで主体的に何かをするのはなかなか難しいです。でも、園長先生が気にしてくれていて、息子が年中になってちゃんと理解できる年頃になったので、もう少しお母さんが関わってあげたらどうですか？と提案いただいて、今お迎えにチャレンジしようとしているところです。

前述のとおり、通用門の課題があって、電話をすれば先生が息子を連れて車まで来てくれると言ってくれたのですが、息子は他のお父さんやお母さんみたいに部屋まで迎えに来てほしいみたいです。

最近になって息子から「ママのことは僕が守るから、ママがひとりで迎えに来て」と言われました。息子が私を守ると言った背景には、以前、遊びに行った先で息子と同年代くらいの子が私の歩き方をからかってきたことがあったんです。

当時、息子はまだ3歳で発語がたどたどしかったのですが、必死に「ぼくのママだ！」と言ってくれて、胸が締め付けられました。園長先生がおっしゃったように息子はちゃんと理解しているのだと実感した出来事でした。

園長先生だけでなく、ほかの先生方も気さくに接してくれるので、私にとって保育園は行き来しやすい場所です。先生や保護者の方のサポートがあれば、私ひとりでのお迎えが実現するのもそう遠くはなさそうです。

また、保育園だけでなく、時々病児保育も利用しているのですが、その病院スタッフにも私の障害について理解してもらっていて、いろいろな面で融通を利かしてくれるので助かっています。

たとえば、通常は診察室で診察を受けてから徒歩で2~3分の病児保育室に移動しなければいけないのですが、移動が大変だからとドクターが病児保育室まで来て診察してくれたり、私は抱っこができないので、息子の車の乗り降りもサポートしてもらっています。こういったサポートがあり、病院の送迎は私ひとりでできています。

まわりの方のサポートには本当に感謝しかありません。その思いがお互いの歩み寄りになって、理解や改善に繋がったらうれしいです。

鈴 長女が就学するにあたり、早い段階から学校や教育委員会などと話をすると周囲から助言されていたものの、なかなか重い腰を上げられず、気づけば長女は年長になっていました。その年の夏休みに校長と教頭先生に時間を作ってもらい、自分の障害について、配慮してもらいたいことなどをようやく伝えることができました。その時に校長先生から伺ったのは、教育委員会に申し出れば階段の昇降機を貸してもらえると。ただ、それは肢体不自由の児童が在籍している場合で、保護者の場合の前例がないので相談が必要とのことでした。とは聞いたものの、私の中での昇降機のイメージが、ひと昔前に駅などで見かけた大々的なもので躊躇してしまったのと、私の場合は手すりがあって少しの見守りがあれば上り下りができるので、結局昇降機についての相談はしませんでした。

階段の上り下りは大変ですが、手すりやスロープが設置されていますし、今年度の学校ランドデザインには「ユニバーサルデザイン化の推進」が掲げられているので心強く思っています。ちなみに、手すりやスロープは過去に肢体不自由の児童が入学するのを機に設置したそうです。

余談ですが、子どもたちが在籍していたこども園は、ちょうど長女が生まれた年に幼稚園から認定こども園となり、そのタイミングで園舎が建て替えられ、エレベーター、スロープ、多目的トイレ、点字ブロックなどが設置されていたので、本当に恵まれていました。確実にユニバーサルデザイン化が進んでいると実感しました。

また、遡ること30年以上前の話になりますが、特別支援学校に在籍していた私は、もっと大人数のなかで学びたいとの思いが芽生え、今でいう交流籍のような形で週1でこの小学校に通っていた時期がありました。今のように特別支援学級がなかった時代です。それでも、障害がある私の気持ちを受け止め、「やってみたいという気持ちを大切に、思いきり楽しんでほしい」と二つ返事で迎え入れてくれた校長先生をはじめ、クラス担任には今でも感謝しています。まさか時を経て親として再びこの小学校に足を踏み入れることになるとは夢にも思いませんでしたが、当時の同級生たちと親になって再会し、子ども同士がまた同級生になって仲良くしている姿を見ると、とても感慨深いです。

みなさんもおっしゃっていますが、まわりの支えは大きいですね。こども園時代、長女と同級生のお母さんが「運動会で鈴木さんが参観しやすいように席を作ってあげてほしい」といつの間にか園長先生に交渉してくれていたということがありました。それ以降、運動会や発表会では優先席が設けられるように。障害者だけでなく、高齢者や妊婦さんも対象です。のちに「お節介でごめんね！」と言われましたが、私はそのお節介が素直にうれしかったです。

2016年に障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律（通称：障害者差別解消法）が施行された。障害者差別解消法では、行政や民間事業者等に対し、障害を理由とする不当な差別を禁止するとともに、合理的な配慮の提供を義務化している（民間事業者の場合は努力義務）。また、2020年5月に改正バリアフリー法が公布され、バリアフリー基準適合義務の対象に公立小中学校が追加された。学校は避難所となることも多く、教育施設としてはもちろんのこと、地域施設としてもバリアフリー化の推進が求められる場所となる。

障害当事者である親として
率直な気持ちを聞かせてください

山 娘はすでに成人していますが（写真下）、僕が車椅子だから…ということは聞いたことがなくて、むしろ、うちの父親は車椅子のくせに遊びまくってアクティブに動き回っているから障害者らしくないと友達に言っているみたいです（笑）。時には娘に自分の介助をお願いすることもあります。普通にさっさとやってくれます。逆に「自分でやってみよう！」と促されて、それができると「やればできるじゃん」って（笑）。そういう絡みもあります。なので、僕もあまり意識せずに子育てしてきました。



小 子育ては今まさに自分が携わっている障害がある方の自立支援にも通じるところがあり楽しいなと思います。思い通りにいかないことが多いなかで、相手の気持ちを受け止め、理解し、どうしていくことがベストなのかを模索しながら一緒に見つけていく。親が決めることは簡単ですが、子どもの主体性を尊重した子育てを意識できるのは、今の仕事をしているからならではだと思います。子どもがいて良かったと心底思います。

鈴 以前、参観日に長女が私のことで友達から質問攻めに合い、なかなか給食の支度ができずにいるところを見ていたことがあり、私のことをどう思っているのかずっと気になっていました。

またある時は、町内のこども神輿の引き回しのため、車椅子で参加しても良いかと聞いたところ、「車椅子はイヤだけど、ママがいないのもイヤだ」と言われ、複雑な心境になったこともあります。

長女は高学年になり、いろいろなことを考える年頃。この記事をもとめるにあたり、子どもたちに私が障害者でどう思うかをストレートに聞いてみました。「ママはママだからそんなこと考えたことないけど、いちばん気にしているのはママの方でしょ？」と長女からは鋭い返答が（笑）。

一方、二女は「ママに障害がなかったら、もっと鬼ごっことかできるかもしれないけど、ママの杖の音がカタカタするおかげで、お店で迷子になりそうな時もすぐにママを見つけられるからいいよ！」と、まだ少し幼さが残る二女らしい返答にこれはこれで笑ってしまいました。

これからお互い悩むことはあると思いますが、限りある子育ての期間を思いきり楽しみたいです。



H できないことが多くて母親としてこれでよいのかと思う時もありますが、息子が生まれてきてくれて、みんなを幸せにしてくれているので、息子には感謝しかないです。私たちの元に来てくれた命を大切に、これからも悩むことはたくさんあるかもしれませんが、息子を信じて育てていきます！

今回、主に学校や保育園での様子を中心に話を聞いたが、私が予想していたより各々の困り事が少なかったように感じた。私たちのような子育てをする障害当事者に限らず、時に悩み、もがきながらも障害がある人の生活は周囲の支えがあれば成り立っていくのかもしれない。

しかし、“なんとかなる”と安易にこの記事を読み終えていた私に、同僚が釘を刺した。「現状ではどうしようもない」、「既にできあがっているものを変更することは容易ではない」、「社会のバリアは当たり前にあるもの」として現状を打破するにはとてもチカラがいるし、交渉が必要だったり方法を考えなければならぬ。これがいわゆる「合理的配慮の提供」だったり、近年流行りの「心のバリアフリー」というもの。しかし、その根本的な視点はもう一歩踏み込んだところであって、現在の社会常識や仕組み、環境のバリア（人の無知・偏見含む）は、障害がある人がこれまで如何に排除されてきたかという証ともいえる。

なぜ「現状では〜」、「既にできあがっているものを〜」、「社会のバリアは〜」とってしまうのか…その要因は、個人が抱える機能障害が問題ではなく、すべてのバリアの問題・課題の出発点は「環境」にある、ということを理解する必要があるのだと。

私はハッとした。これから子どもたちがもう少し成長したらこういったこともきちんと伝えていきたいと思った。

ある日、工作中的の小久江の携帯に息子さんから電話が入った。

「お父さん、友達からカブトムシをもらったよ！」緊急の用件かと思い、電話に出た小久江は拍子抜け。「まったく仕事なのに！」と言いつつも、どこことなく嬉しそうな表情が私の目には微笑ましく映った。授業参観ができることを願って…

文：鈴木香奈

それいゆ直売所

2025
05.26
mon
OPEN

静岡で採れた旬野菜を
あけぼの第一駐車場前で販売します

農家さんが愛情一杯に育てたおいしい野菜を、
新鮮なまま届けることで『笑顔』と『幸せ』を
増やしたいと思い無人販売を始めました。

取り扱い農家さんは15社以上です！

【それいゆ直売所】

TEL: 054-288-6077

〒422-8006 静岡県静岡市駿河区曲金5丁目4-50

営業時間：月～金 8:30～15:00

(野菜が無くなり次第終了)

定休日：土日祝

※雨天中止の場合もあり

支払い方法：現金、PayPay



Instagramはこちら



静岡市場のお野菜を販売しています

静岡

静旬市場
新鮮こだわり静岡旬野菜

TEL: 050-7112-4437

住所：〒420-0042 静岡県静岡市葵区駒形通6丁目8-17

営業時間：月～土 7:00～18:00 日 10:00～18:00

定休日：年中無休

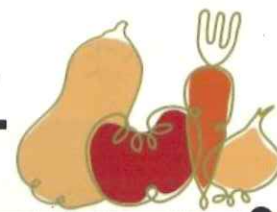
支払い方法：現金、PayPay

2025年1月13日
「1号店駒形店」OPEN！

Instagramはこちら



それいゆ直売所 OPEN後の様子



オープン初日はたくさんのお客様が来てくれました！



先着10名様にイチゴをプレゼント
葉ねぎ掘み取りを初日だけやりました！
有難いことに野菜果物全部売り切れました。



仕事の合間に利用者さんも直売所の様子を見に行きます



オープンして2ヶ月が経ちました。
嬉しい事に常連の方が増えてきまし
た！本当にありがとうございます。
今では向かい側にある済生会病院の
職員さんも来てくれたり、外国人の
留学生が買ってくれる姿がよく見ら
れます。
無人販売なので直接利用者さん達が
対応ができないのが残念ですが、た
まに販売所の様子を見に行ってお交
流ができればいいなと思っています。



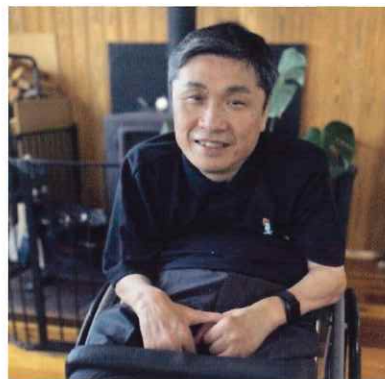
お客様の声

いつも通ってたけど気になって寄ってみました。
トウモロコシがめっちゃ美味しかった。
毎週通うよ。
葉生姜が美味しかった。
葉生姜が新鮮だったよ！
病院の帰りにまた来るね。
もっと早く始めてほしかった！

人通りが多いところでこうして
無人販売を始め、沢山の方から
嬉しい言葉をいただけて胸がい
っぱいになりました。
これからも静岡で採れた美味し
い旬野菜を販売していくので
是非お立ち寄りください！



ひまわり事業団理事 山本忠広さん 退任にあたり



2019年より、当法人の理事を3期6年務めてくださった山本忠広さんが2025年6月30日をもって退任されることになりました。

山本さんはご自身も法人の代表を務める立場として、時には被雇用者の気持ちを代弁し、理事会においては考え方や思いを積極的に発言してくださいました。

職員から退任を惜しむ声が多く聞かれるなかで、山本さんに退任にあたっての思いを伺いました。

理事になるきっかけ自体はどうかかわからないですが、そもそも昔から、渡辺さんの頃から、うちももっと言えば前理事長だった土屋さんの頃から、ホットハート静岡とホットハート清水があって、ホットハートの長屋の頃からの付き合いでした。役員にならせてもらったのはわずかですが、静岡と清水で障害当事者の生活を支えていこうという志を持つ障害がある方々が多かったので、そういった部分では法人同士がきょうだいみたいな、そういう近さがありました。なので、お話をいただいた時も自分で良ければと入りやすさがあって入れてもらった感じです。

今回、退任するにあたっては、自身が自分の生活設計のなかで、ある程度60までを目標にと思ってやってきたので、そこを境に仕事の方は徐々に減らしていこうと考えていました。いろいろな役を受けて安請け合いしてやりますはできるんですが、任期はきちんと全うして終わらせないと中途半端に受けることはできないと思っています、そうすると、メインであるそらの仕事を自分はどこまで理事長として役割を果たせるか、そこを最後のひとつの仕事として仕上げに入るとしたら、他の仕事はその前にきちんとそらの理事長という肩書があるうちにけじめをつけなくてはいけないと思ったので、ひまわり事業団に限らず、他に受けている仕事もあと1年か2年で終わるように準備をしているところです。

離れるのはすごく残念ですし、皆様からお引き留めいただいたと聞いたので、気持ちとしてはいつも傍にいたいなと思っています。せっかく作っていただいた関係なのでね。ただ、役員という立場はどこの会社とか法人でもいずれは交代しなければいけない時がきます。その人が辞めますと言うまでいけばいいのかということそれは次の人たちを育てておかないといけないと思うんです。

自分がゴールテープを切って終わりではなく、バトンとかタスキを渡していける人たちがいないといけない。そういう時期かなと。みんながみんな60や70になってバタバタといなくなって後の人たちが路頭に迷ったら困るので、そういうつもりでは、自分も次の人たちを育てていくのは使命かなと思っています。なかなか障害当事者で、静岡でとなるといないのが現状ですが…。

それから、自分の感覚としては障害者である以上、障害者でしかわからないこととか、言えないことは言えないと思うんです。ただ、価値観として基本は人間みんな一緒なので、どこにもそんなに傾かず、なるべくバランス良くというのは常に思っていて、子どもから障害者、高齢者、また、サービスを受ける側、働く側、どこにとってもなるべく中心的な感覚、どちらの立場にも立てるというのは意識して、でも、障害当事者でなければできないことは担えいいかなと。

そういうところで、働いてくれている人たちが言ってくれているとか、思ってくれていると感じてもらえたら良かったかなと思います。僕も法人をやっている以上、「障害者のためにただ働け」とか、「給料が安いのはこういうところだからしょうがない」とは言えないので、気持ちよくその人の言うことに理解を示してやっていきたいなと思ってもらえるようにはしていかなければいけないかなと。

これからも呼ばれたらいつでも伺います。何度も言いますが、役員という立場としては自分ができる力量までやらせてもらって、今後は立場を離れるので法人を動かす力はないですが、もし、アドバイスがほしいとか、僕の話が聞きたいということであれば、いくらでも相談にはのるので連絡ください。

山本さん 本当にありがとうございました



就労継続支援B型 それいゆ

職業指導員

いのうえ かずあき
井上 和昭

今年の2月からひまわり事業団で働き始め、5月から正式に職員となりました井上和昭です。
就労継続支援B型「それいゆ」の所属になります。

自己紹介を兼ねて、これまでの経験についてお話しさせていただきます。

私は生まれが神奈川県横浜市になりまして、高校まで同市に住んでいました。卒業後は、幼少期から今現在でも携わっておりますサッカーの関係で南米のブラジルで約3年間選手として経験し、帰国後は複数の日本のチームに在籍しました。その関係でサッカーの町ともいわれる静岡県に来ることになり、現役引退後は静岡を離れることなく絶景の富士山を眺めながら長く同県で過ごす形になっています。

今回、ご縁があり入職させていただくことになりましたが、その経緯と経験について少しお話をさせていただくと、私自身は初めから福祉関係の仕事に携わっていたわけではなく、選手として引退後は所属チームが車業界の会社だったこともあり、自然とそのまま車関係の仕事に長く就いていました。そのようななか、知人より福祉関係でのトレーナーの話をいただき、もともと身体を動かすことや人と接することが好きだったので、この業界に入ることになりました。

そこから事態が急転し、社内の新規事業にて介護タクシーの立ち上げをすることになって従事してきたのですが、その際に本当に多くのご利用者の方が移動、移乗の介助に困っているということを知り、同時にサービスを利用している時間以外でもご利用者との関わりをもちたいと思ったことが今回入職することに至った経緯になります。

少し話はずれますが、現在某チームにてサッカーの指導のお手伝いをさせていただいておりますが、数人の障害を抱えている選手が在籍しております。

ひまわり事業団に入職したことにより、選手との接し方や考え方が生かされており、同時に他のスタッフにも共有できたことがこの仕事に従事できていることに対して本当に嬉しく思います。

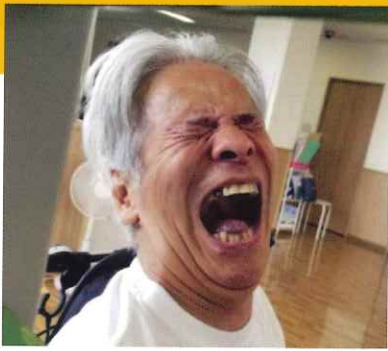
ここからは私のプライベートの部分の部分を少しお話させていただくと、趣味は食べることと、ライブ（フェス）に時間がある時には行っています。食べることは、自身の食グループのメンバーからもらった情報から近場から遠方まで食べに行っています。ライブは今年に入って4回程ですが、昨年は9回いろいろな会場に足を運びパワーをもらってきました。基本的にアウトドアの時間が多いです。

最後に。

ひまわり事業団に入職し、今はこれから何をして行くというよりはご利用者との関わりを持っていくなかで自分の経験や“らしさ”を生かしつつ成長できればと思っています。

何かあればお気軽にお声がけください！





とおるのトーク

文：橋本 徹

少し前になるが、3月「35年目のラブレター」という優しくて心温まる映画を観に映画館に行った。「Dr. コトー診療所」以来映画館で観たのは久しぶりのことだった。教会で会う方も偶然同じ作品の同じ回に来ていて出口でばったり…次の日曜に教会で礼拝後に話したのは、言うまでもない。

3月というと東日本大震災を思う。3・11の日はリアルに寒かったな。当時、ひだまりに用があり、まだ小鹿にあった事務所にいたら揺れ出した。当時は夜勤のヘルパーもいなくて、寒さの中で夜中独りびりながら寝たのを覚えている。14年前のことだ。福島原発の廃炉処理は遅々として進まない。原発事故について忘れそうになるばかり。忘れそうな時、自戒を込めて二度と同じことを起こさないためにも覚えてることって大切だと考える。

5月 連休明けでだらけていた身体が驚くほどに、急に暑くなって20日には真夏日になった。普通、暑熱順化をしながら夏になるのにね。20日だけはとりあえずエアコンを入れてみた。過去、エアコンで冷えて発熱外来にかかって以来、最初に除湿冷房を始める時は緊張しますな。そんなこんなで2025年もシラッと半年が過ぎる。

このコラムの締め切りが6月末だが、ついこの前、元旦ネタでコラム仕上げたばかり。なんかこのシラッとが早かったな。今年の目標にした人との繋がりは、メル友もできて順調だよ。これは、言語障害のあるぼくには楽しい。

5月は4日に劇団四季の二人のロッセを観てきた。7月には赤毛のアンが、これも清水マリナートで公演だ。静岡市民文化会館が改修工事で2028年までは使えなくて、清水のマリナートまで行かなきゃという不便があり、おまけに毎年楽しみにしていたさだまさしも静岡市には来なくて浜松のアクトシティの公演だけになってしまった。ハイローズを観たのも静岡市民文化会館で、思い出がいっぱいのホールだよ。

ニュースを見ると何を始めるかわからないトランプ大統領で戦争はひどくなるし、選挙目当てのバラマキに懸命な政治、コメはいくらになるか知らないが、減反を推進した自民党の責任は重い。まっ、7月の選挙は個人的に自民が減るといいと思う。これがみなさんの手元に届く頃には結果が出ているね。

戦争が広がらないことを願ってコラムを終わる。

障害を持つ人の生活を支援する

ヘルパー募集

お気軽に
お電話ください
054-287-1230

【編集後記】厳しい暑さが続いています、いかがお過ごしでしょうか。

さて、子育てをする障害当事者については、賛否両論あるかもしれませんが、私は障害があっても覚悟を持って親になったつもりです。以前、「車椅子のママはイヤだけど…」と長女から言われ、落ち込みましたが、長女に改めて聞いたら、「そんなこと言ったっけ？」との返答。気を遣ってとぼけているのか、純粹に忘れていたのかはわかりませんが、今号の特集がきっかけとなり、障害は関係なく、少しでも子どもたちから誇りに思ってもらえる親になろうと気合いが入りました。地上に出てからの蟬たちの命は短いですが、その懸命な鳴き声に背中を押されたようです。

機関誌編集委員長：鈴木香奈